

第4号

2021年6月1日発行





### 遊牧民の家族との出会い

2005 年9月、イランの旅に出た。沙漠でテントを張って暮らしている遊牧民の家族と出会った。わずかな時間であったがテントに入れてもらい、言葉は通じなくても交流することができた。この人びとはラクダ・羊・山羊などを飼い、夏場は内陸部でテントを張り、冬場は数百km離れたペルシャ湾の暖かい土地で暮らす。彼らには「国境」という意識はない。家畜の草地を求めて、家族と家畜・家財道具が一団となり自由にどこにでも移動する。このような生活様式を数千年にわたって続けている。遊牧民は、モンゴル帝国・イスラム帝国など世界史の重要な局面で大きな役割を果たしてきた。また厳しい自然・風土の中で培った独自の食文化(チーズ・バターなどの乳製品)を私たちに伝えている。遊牧民の暮らしを学ぶことは多様な世界の現実を見る上で欠かすことはできない。(写真・文:若木久造)



## アルディから始まるもうひとつの歴史

#### 山田 麗子 (「学ぶ会」副代表理事)

学び舎教科書の第1章(1)「木から下りたサル」には、ラミダス猿人の復元された骨格のイラストが載っています。440万年前のエチオピアで、直立して歩くようになった人類の先祖です。歯と骨盤の形から女性であることがわかり、アルディの愛称で呼ばれています。

ところで、ニホンザルのお産はとても軽くて、母親は自分で赤ん坊の頭を引き 出します。赤ん坊はずっと母親にしがみついているので、産後すぐに食料の採集 を始められます。一方、最も難産と言われているのが人間です。では、アルディ はどうだったのでしょうか。

人間が難産になったのは直立二足歩行が原因と言われています。直立二足歩行は道具を生み出し、脳を発達させました。その結果、胎児の頭は大きくなり、産道を容易に通り抜けられなくなったのです。脳の巨大化とともに出産は命がけとなり、介助者が欠かせなくなりました。しかも、骨盤の大きさには限度があるので、脳が未熟な状態で産み、出産後に子どもの脳は大きくなっていきます。人間の子どもは自立するまでに長い年月と多くの人の手が必要になりました。

直立二足歩行の結果を進歩の面だけで語りがちですが、アルディから始まる難 産の歴史から、人間は根源的に支え合うべき存在であることが見えてきます。

<b>風のいろ</b> アルディから始まるもうひとつの歴史	山田 麗子・・2
今・学校で・教室で 18 歳の春を泣かさない~高校生の就職活動~	條 冬樹・・・3
交流の広場 「望郷の鐘―満蒙開拓団の落日」映画鑑賞会より	野口 恭子・・4
<b>大学のキャンパスから</b> 「歴史像」をとらえられる教科書の大切さ	丸浜 昭・・・5
歴史の窓 縄文時代は、なぜ1万2000年以上も続いたのでしょうか?	宮瀧 交二・・6
授業づくりの土おこし	
モノから学ぶ歴史 ②沙漠の遊牧民は、何を燃料に料理するか?	瀬戸口 信一・・7
ようこそ教科書の舞台裏へ	
アジア太平洋戦争への思い・日本軍によるマレー半島の傷跡を訪ねて	髙嶋 道・・・8
学びを深める 第4回	
政治家への手紙―社会は「ながめる」ものではなく「つくる」もの	菅間 正道・・9
随想 連載 ④茨木のり子の詩から広がる学び	黒田 貴子・・10
読者の声	• • • 11
学ぶ会からのお知らせ	• • • 12

# □ 今・学校で・教室で \_ ■

## 18歳の春を泣かさない~高校生の就職活動~

#### 條 冬樹 (千葉県立高校教員)

#### コロナ禍の就職

高校で進路指導を担当しています。勤務校では卒業後の進路で3割くらいが就職します。昨年度の就職選考は臨時休校の影響で、例年より1か月遅れの10月から始まりました。感染拡大の影響もありました。求人数は約2割減少しました。また求人票は来ても、採用人数を減らした会社もあります。

たとえば、前年、全国で100名採用した大手エステ会社は今年度の採用なし。社員の自宅待機もあり、前年採用した人の教育も終わっていない状態だからです。地元の百貨店は、例年8名採用のところ2名に削減。ホテル、空港関連、飲食店、居酒屋の求人は、ほとんどありません。反対に採用に積極的だったのは、スーパーです。巣ごもり需要で、食料品などの売り上げアップで人手不足だそうです。建設、介護関係は、もともと希望者が少なく、相変わらず人手不足です。

ここ数年の求人状況は好調で、1回目の選考で8~9割の内定をもらえるのですが、昨年は7割でした。不合格だった生徒は女子が多く、職種は、エステ、ホテル、鉄道、家電量販店、百貨店、化粧品販売など販売サービス業が多かったです。

#### 女子生徒の苦難

Aさん(女子)。成田空港で保安検査の会社を希望して、夏休みに会社見学に行きましたが、その数日後、急に会社から連絡が入り、旅客の減少により経営判断で、採用がなくなりました。会社選びや面接練習などして準備して、見学まで行って、成田の寮で一人暮らしを考えていたのに、かわいそうです。結局、その後、一から選びなおし、携帯電話販売の会社に内定しました。採用内定後に取り消されるよりは、よかったのかもしれませんが、致し方ない事情とはいえ、結果的に振り回されてしまいました。

Bさん(女子)。家庭の事情があり、自宅から出て、 住み込みのホテルでの仕事を希望していました。例 年ならば求人は多く、選べる職種でしたが、今年は 求人が少なく、苦戦しました。1社目の大手企業は 不採用でした。2社目で雪国の温泉ホテルに内定し ました。採用選考は泊りがけで、交通費も宿泊代も 会社が出してくれましたが、一人で遠くまで旅行し た経験がなく、しかも大雪で行くのが不安でした。 担任の同伴が認められて受験し、ようやく年内に内 定に至りました。

Cさん(女子)。エステや美容業界を希望していましたが、オンライン面接が苦手で、数社を受験しましたがダメでした。3社目の面接では、口頭で合格を伝えられたにもかかわらず、後日、本社から不採用通知が来ました。それでも、めげずに頑張り、卒業直前に美容師アシスタントの内定が決まりました。

#### 今後の進路指導

勤務校では、就職希望者は、前年よりも減りました。その理由を想像するに、コロナ禍で就職が厳しくなると予想し、敬遠したと考えられます。また、進学にシフトしたのではないかと思われます。その背景には、給付制奨学金や授業料の減免が実施され、上級学校への進学がしやすくなったこともあるでしょう。先行きが見えない不安定な社会状況の中で、手に職をつける、資格をとるために専門学校への進学が有力な選択肢になっています。

今年も7月から求人票が学校に来ます。就職活動はすでに始まっています。教員は授業をしながら、並行してキャリア・カウンセラーの仕事もしています。人手が足りません!経済状況が悪化する中で、政府には、勤労の権利を保障する責任を果たしていただきたい。お願いします。



「祝!内定」を知らせるメッセージボード



# 交流の広場



## 「望郷の鐘―満蒙開拓団の落日」映画鑑賞会より

板橋 大人の学び広場 野口 恭子

私達は毎月一回のペースで、学び舎の歴史教科書を使って近現代史を学習するようになって2年半が経ちます。

昨年末、敗戦の頃の日本を学習していたところ、中国残留日本人孤児の記事(p.253)が話題に上がりました。満蒙開拓団の悲劇の歴史については、「日本の満州開拓と中国人農民」(p.231)でも学習しており、現地農民から奪った土地に日本人が騙されて入植させられた事実があります。戦争の実態を知らされないと言うことはどんな悲劇を招くのか。

戦後 75 年たった今、この映画を鑑賞し歴史を深く知ることで平和を維持することの大切さを改めて心に刻みたいと考え、この映画観賞会を企画しました。非常事態宣言の中でしたが、参加者を広く呼びかけたこともあり、18 名の方が参加して下さいました。以下に感想を記します。

.....

☆長野県阿智村、満蒙開拓平和祈念館には、映画の主人公である「山本慈昭」の活動を伝える資料も展示されている。長野県は農村の人口過剰と口減らしの必要により、満蒙開拓移民を国内で最も多く送り出した地域で、農家の次男、三男…は執拗に移民を勧められ半ば強制的に連れていかれた。全財産を残し命からがら帰ってきた時は「満蒙乞食」と蔑まれ、二重にも三重にも国から捨てられた人々だ。実際の満州からの引き揚げの様子は映画で表すものよりもっと悲惨だが、監督によればその悲惨さを描くことよりも多くの人にこの事実を知ってもらいたいという気持ちがあったという事だ。

☆「だまされた」という子に、主人公が「だます人」と「だまされる人」がいると語る言葉はとても重く響いた。今でも平気でウソをついてだますことができるという政治が行われていることに本気で怒らないといけないと思った。どんな小さなことでも見逃さず、だまされない目、耳を持っていかなければと思った。小学校や中学校の歴史の学習時間に是非取り扱ってほしいと思う。



☆満州からの逃避行の話は色々な所で(文章で)知っていましたが…。大変心痛む惨状ですね。「戦争はだます人もいれば、だまされる人もいて起こる!」だまされない人にならなくては!と思います。それには知ることですね。映画の中のダムでの中国人の強制労働の事実は初めて知りました。まだまだ知らないことがあって…。山本さんが帰国してから残留孤児の事で活動されたことに感動しました。

☆この物語がまだ 100 年にもならない過去の事実であることにただ痛みを覚えます。国家とは何かを学ぶこと、社会で起きていることの本質が見える知性、主権者として生きる力量を学校が育てることがいかに大切かを改めて痛感しました。

この満蒙開拓団については、(12) 問い直される戦後 (p.280) でも触れられると思うが、帰国者の方達の高齢化、また今現在もなお社会から孤立させられていること、二世三世の方達の問題など考えなければいけないことが山積している事を思うと、日本は戦後処理がまだまだ不十分であると考えてしまう。



# 「歴史像」をとらえられる 教科書の大切さ

丸浜 昭 (獨協大学非常勤講師・元中高教員)

言葉だけ覚えても歴史像は思い描けず、次の学びにつながらない。民衆の生活と結びついた歴史像をとらえ、次の時代、また次の時代と変化を学び、現在へとつながってくる。

(2020年版教科書 42ページ)



#### 重要語句が太字の教科書で学ぶ弊害

古代社会を学生がどう学んできたかを確認してみたいと考え、授業の初めに、学び舎とA社の「租調庸」のあたりの教科書記述を読んでどちらが教科書としてふさわしいと思うか聞いてみた(学び舎以外の教科書記述は語句や制度の解説中心になっている点で基本的に同様)。結果は1対2くらいの比率でA社がいいが多く、理由は、「基本的」なことを太字で記していて、何を覚えたらいいかはっきりしているから、が多数だった。それに対し学び舎版は物語のような記述で、太字がなく、何が大事で何を覚えればいいのか難しい、という。

実は、この問いは、古代の租調庸と現代の税について、基本的には同じような税と捉えられるかと問う中でのものだ。ここで私が確認してみたかったのは、現代と1000年以上前の社会の「基本的」な違いを学生がとらえているかということだった。予想以上に同じといえるのではないかという学生が多く、その理由としては「"国"へ"税として納める"という制度であることに変わりないから」「現代の税も租庸調も国を動かすために国民が払うから」「システムが同じだと思う」等があげられていた。

どうして1千年以上隔てた社会のあり方の大きな違いに目が向かず、税の仕組みは異ならない、という答が出てくるのだろうか。私たちは日常感覚にしばられ、それとは大きく異なる時代があったということを簡単にはとらえられない、異なる時代をとらえる歴史感覚を意識して身につけることが歴史を学ぶ上で重要だと、あらためて痛感する。

#### 学生は歴史像をイメージでき、考えることができる 学びを求めている

ただし、これは学生(今の若者)の責任ではない。 学生はきちんと学びたいという意欲を強く持っている。それは、学び舎の教科書記述がいいという次の 声からよくわかる。

「『学び舎』教科書は租・調・庸の制度に苦しむ農民が、口分田を捨てて逃亡したことや、兵役・労役を逃れるため戸籍を偽る人も出てきたことを記述しており、その時代のリアルな実態がうかがえる。 A社教科書を中学生が読んだら、太字の単語だけ暗記してしまう生徒がいるのではないか。歴史を学ぶには全体の流れをつかむことが大事なので、部分暗記をしてもテストで点数は取れるかもしれないが、すぐ忘れてしまい、例えば口分田という単語を覚えたとしても、それはどういう制度でなぜ作られたのかと聞かれても答えることはできないだろう。」

『学び舎』教科書の方がいいとした声の多くはこうしたものだった。そしてごく少数というわけではなく、A社がいいという学生でも、受験などを離れて考えれば学び舎版に惹かれるという者もけっこういた。穴埋め、丸暗記を強いる歴史学習が、実際には歴史学習を空しいものにし、現代につながるものとして歴史をダイナミックにとらえる面白さや知的興味を奪い、若者の歴史嫌いを助長しているのだ。この歴史教育に大きな問題がある。学び舎教科書を使った本当の歴史学習が広がることを心から期待し、祈念している。

# 歴史の窓

## 縄文時代は、なぜ1万2000年以上も続いたのでしょうか?

宮瀧 交二 (コアアドバイザー・大東文化大学 文学部 歴史文化学科 教授)

#### 縄文人は野蛮で貧しかった?

現在、中学・高校の歴史教科書等には、『ともに学ぶ 人間の歴史』(27頁)にもあるように、縄文時代は約1万5000年前に始まり、1万2000年以上にわたって続いたと記されています。縄文時代は、なぜ1万2000年という長期間にわたって続いたのでしょうか。

従来、こうした疑問については、狩猟・採集経済に依存していた縄文時代の人々の生活・文化が野蛮で貧しかったため、なかなか「稲作」を営む農業の段階へと発展しなかったというのが通説になっていました。かつて私も大学で「日本文化史概説」という授業を担当していた時、縄文時代の講義に入る前に、学生たちに各自が想像する縄文時代の人々の姿を絵に描いてもらったことがありましたが、黒板に描かれるのは、ボサボサの髪に毛皮を身に纏って石の斧を持つ「野蛮」な半裸の人物像でした(笑)。

#### 一転した縄文時代の人々・縄文時代のイメージ

ところが、高度経済成長期以降、列島の各地で大規模な開発が進められ、これに伴う縄文時代遺跡の発掘調査件数も爆発的に増加しました。その結果、全国各地の縄文時代遺跡からは、縄文土器や石器(矢の先に用いられた石鏃や、土掘りに用いた石斧等)等に加えて、縄文時代の人々の生活を具体的にうかがい知ることが出来る様々な遺物、例えば多様な装身具や、彼らの姿を写した土偶等が数多く出土し、かつての縄文時代の人々に対する私たちのイメージは大きく変わってきました。

女性の髪は美しく結い上げられ、時には朱漆塗りの飾り櫛を差していたようです。また、男女とも大きな土製のピアスを耳に飾り、翡翠やイノシシの牙を用いた垂飾(ペンダント)を首にかけていたようで、そのオシャレな姿は、今、彼らが原宿の街を歩いていても誰も不思議に思わないとまで言っては言い過ぎでしょうか。いずれにしても、もはや、野蛮で貧しいという縄文時代の人々・縄文時代のイメージは成立しないというのが現状です。むしろ縄文時

代は、豊かな暮らしを維持していたため、長く続い たとみられています。

#### 遺跡に優劣なし

特に、平成4 (1992) 年から青森県青森市に所在する三内丸山遺跡 (縄文時代前期~中期。約5500~4000年前。現在は国の特別史跡) が発掘されたことは、旧来までの縄文時代のイメージを転換する上で、とても大きな意義がありました。これまで全国各地の縄文時代遺跡において、小規模な発掘調査によって断片的にしか把握されてこなかった縄文時代の生活の実態が、野球場建設に先立つ広大な面積の発掘調査によって、総合的に把握されたのです。

しかしながら、三内丸山遺跡だけが特別に優れているという認識は誤りです。全国各地の縄文時代遺跡に優劣は無いのです。皆さんの暮らす町で発掘された縄文時代遺跡は、たまたま三内丸山遺跡に比べて発掘調査面積が狭く、また出土した遺物が少なかっただけに過ぎないのです。そもそも、遺跡から出土する土器や石器等の遺物は、集落を離れる際に縄文時代の人々が捨てていった日常生活の品々、手っ取り早く言えばゴミなのですから、あまり良いものが遺されていないのが、むしろ当たり前なのです。

ところが、縄文時代晩期には地球環境が寒冷化に向かい、人々は以前から知っていた粗放的な単なる「コメづくり」を、大陸・半島などから導入した農業技術に基づく本格的な「稲作」として再受容していきます。…弥生時代の足音が聞こえてきました。



群馬県榛東村茅野遺跡出土の耳飾り (ピアス) [榛東村 耳飾り館『耳飾り その形と文化』1992年より]



# モノから学ぶ歴史(子どもたちと学んだ世界地理の実践から)<br/>②沙漠の遊牧民は、何を燃料に料理するか?

#### 瀬戸口 信一(元公立中学校教員)

人類が「農耕と 牧畜」を始めたの は紀元前8千年頃。

羊・ヤギなど牧畜だけを専業とする人も現われ、それが現代の遊牧民となった。

#### ◆沙漠とは荒野だ!

『これがサハラ沙漠の砂だ。こんな砂の上で人間が暮らせると思うか?』と沙漠の砂を配り手で触らせたい。そして沙漠がどういう気候・風土なのかを考えさせる。細かな粒子の美しい砂は、子どもたちに生命のない無機質な地形をイメージさせ、「こんなところで暮らせるわけない」と答える。

そこで、「ベドウィンのテントのある風景」写真を見せ、『地面はどうなっている?』と聞く。すると「ゴツゴツした地面」「石が転がっている」「草が生えている」『そうだね、沙漠の多くは砂沙漠ではなく岩沙漠・礫沙漠で、まるで荒野とでもいうような地形だ。だから本当はさばくの「さ」の文字は、水が少ないという意味で「沙」という文字が沙漠の実際を正しく表しているのだ』

#### ◆砂漠の民は何を食べているか?

『では、このテントで暮らすべドウィンは何を食べているだろうか?』すると「ヤギの肉」「羊の肉」などの声。『では毎日ヤギや羊の肉を食べるのかな?』「うーん・・・」『毎日の給食がヒントだ』「そうだ乳だ!」と気づく。次に『乳はそのまま飲むのかな?』「違う」『ではどうやって食べる?』「チーズ」「バター」から「ヨーグルト」まで身近な乳製品が出てくる。

『肉を食べると次々と羊やヤギを屠殺しなくてはならずどんどん数が減ってしまうよね。だから遊牧民は、なるべく羊を殺さずに栄養価の高い乳を利用してきた。私たちの食べているこうした乳製品は、遊牧民が開発したものだ』さらに、『毎日チーズとバターだけでお腹が満たせるか?』と突っ込みたい。すると「無理だよ!」の声。『それでは遊牧民の主食は何か?』ここで遊牧民の食事場面の映像(DVD

「人間は何を食べてきたか 乳製品編」NHK編)を 見せる。「あっ!これナンだ」『そうだね。しかし雨 がほとんどない沙漠では農耕はできない。だから遊 牧民はオアシスの農耕民との交易で小麦を手に入れ、 ナンを焼いて食べている』



#### ◆遊牧民のみごとなくらしと知恵に感動!

『いよいよ本題だ。ナンを焼くあの火は、何を燃料にしているのだろうね?』ここで子どもたちに話し合わせよう。「木の枝」「草」「石油」などいろいろな意見が出るが、一つ一つ説明しながらそれを否定。

そして遊牧民の子どもがヤギの糞を拾っている映

像を流す。『実はこれを 拾っているのだよ』と動 物園でもらったヤギの 糞(乾燥したもの)を見 せる。「えーっ!汚い」 「そんなの燃えるわけ ない」と大騒ぎ。しかし 植物繊維たっぷりの糞



にライターで火をつけると予想外によく燃える事に 驚き「すごい!」とその知恵にみんな納得。

『考えてごらん。荒野のわずかな草をヤギに食べさせ、その草をヤギが乳に変える。遊牧民は、その乳から様々な乳製品を作る。そしてそれを小麦と交換してナンを作り、さらに、ヤギの糞(草から乳になる成分を除いた排出物)を燃料にしてナンを焼く』「沙漠の人たちの知恵はすごい!」こうして子どもたちは沙漠の遊牧民のみごとなくらしの知恵に感動し遊牧民に尊敬の眼差しを持つようになる。

# ようこそ 教科書の 舞台裏へ

#### アジア太平洋戦争への思い

### 日本軍によるマレー半島の傷跡を訪ねて

髙嶋 道 (元中学高校教員)

#### 壁画は語り続けている

マレーシアの首都クアラルンプールにある国立博物館 (1963年に開設) の正面にはモザイクの壁画があります。歴史をイラスト風に描いたもので、1941の数字の下には日の丸を背にした日本兵にひれ伏す人の姿が描かれています(右写真)。この年の12月8日、日本の陸軍はマレー半島の東岸のコタバルで敵前上陸し、海軍はハワイの真珠湾を奇襲し、アジア太平洋戦争を始めました。この絵は「暗黒の3年8ヶ月」(日本の占領時代)を描いたものです。マレーシアの人びとにとっては、決して忘れることのできない歴史なのです。〈教科書第9章(8)参照〉

「東南アジアの戦争の傷跡」を訪ねはじめて、四十数年が経ちました。そのきっかけは、1975年に夫が旅先のマラッカ郊外の農村で「日本軍が多くの中国人を殺した証拠を知りたければ案内する」といわれたことからです。そこには 1948 年に建てられた追悼碑がありました。

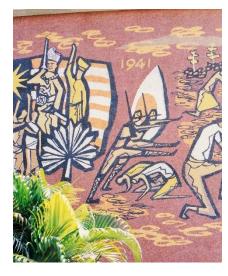
傍らの碑には、「日本軍によって、多くの人たちが命を落とした。空中に放り投げられた赤ん坊や子どもが尖った銃剣で刺された」などと刻んであったのです。帰国した夫から聞かされた時、私は身体が凍りつきそうな衝撃を受けました。「なぜ、そのようなことができるのか」「家庭では良き父や兄であるはずなのに」と。

当時本多勝一氏の『中国の旅』(1972年)で、日中戦争での三光作戦による犠牲が明らかにされていました。日本軍はマレー半島でも蛮行を重ねていたことを知りました。

#### 「日本人が何しに来たのか」

私たちは、マレー半島の日本軍住民虐殺について 資料を探しました。真実を知り、伝えたいとの思い からです。軍人の手記や従軍記はありましたが、住 民の視点から書かれた研究書は、見つかりませんで した。「自分たちで調べるしかない」ということで、 夫は休暇を利用して調査に通うようになり、私も時 折り同行しました。墓地を訪ね、墓碑銘を読み取り、 虐殺のあった付近の追悼碑を訪ねたりしたのです。 戦後30年、家族を殺されたり、犠牲を体験したりした人びとの傷も癒えていない時期でした。

見知らぬ日本人が 墓地をうろうろして いるのですから怪し まれるのも当然で す。厳しい視線を感 じました。時には石 を投げられたり「日



本人が何しに来たのか」と詰問されたりしたこともあります。耐えるしかありませんでした。

そうした中で「日本の学校の教師として、侵略の 事実を生徒たちに伝えたい」との気持ちを汲み、「こ んな日本人もいるのだから」と庇ってくれる人や情 報を知らせてくれる人も出てきたのです。

#### 生き残った孤児の証言

1982年の教科書問題をきっかけに、若い新聞記者の提唱で各地の住民から掘り起こす動きも出て調査が進みました。現在では、マレーシア、シンガポールなどの各地で、日本軍による住民虐殺の追悼碑や墓は70カ所以上を確認し、出版に至りました。この間に各地で人びととの信頼と交流が深まり、心が通いあってやっと証言をしていただけることになりました。親戚のような親しい関係もできました。

そのひとりで、レンバウ県の小さな村ペダスのゴム園に住んでいた鄭来さん(当時6歳)の証言です。

「日本兵がやってきて、村人を集め突然殺し始めました。日本兵は母親が抱いていた生後6ヶ月の赤ん坊を奪いとり、空中に放り投げ、別の日本兵が銃剣で赤ん坊を突き刺しました。」恐怖に震えていた鄭来さんもこの直後6カ所を銃剣で刺され気を失ってしまいました。気づいた時には母も姉も息絶えていました。なんと惨い光景でしょうか、この重い事実。

「戦争さえなければ…」との声をどう受けとめ平 和をめざすのか、自問を続けています。

# 学びを深める

# 子ども・若者を主権者/市民に育てよう―「知憲」「学憲」のススメ 第4回 政治家への手紙―社会は「ながめる」ものではなく「つくる」もの

#### 菅間 正道 (自由の森学園高校校長)

#### どう行動に活かすの?

私が現在担当している選択講座「政治・経済」の 授業では、見過ごせない人権侵害や社会の課題を取 り上げ、問題のありかをさぐるのだが、時折生徒か ら次のような声を聞くことがある。

「いろいろ学んだけど、その知識をどう活かしていけばいいのかわからない」「今回知ったことを、どう行動につなげていいのかがわからない」。

ここには、学んだ知識を何らかのかたちで、「より良い社会づくり」に活かしたい、行動につなげたい、というまっとうな願いが見て取れる。しかし同時に、一歩足を踏み出して「政治」の世界に入るのは、何かコワイし、自分ひとりが声をあげても何も変わらない、あるいは知識や行動力がない自分は選挙権を行使する資格はないのではないか…こういう意識も垣間見える。

#### 政治家への手紙

私はいつの頃からか「政治」を「自前の社会づくり」と定義してきた。含意としては、「お任せ民主主義/国家づくり」の対義語のつもりである。先述の生徒の問いかけに十分答えられているものではないが、私は、2009年以降、国政選挙がある年に、生徒たちに次のような課題を提示してきた。自分の住んでいる地域の立候補者や政党に、自分の思いや願いを手紙やメイルで届け、その返答の有無やなかみについて、レポートを作成せよ、というものだ。題して「政治家への手紙」(詳しくは、拙稿「政治的リテラシーを育むささやかな試み」『民主主義教育 21』2010年5月号 同時代社)。

授業ではみんなで議論し、共通要求項目を決め、それに加えて個人の要求を記し、相手に送る。その

際、この課題の意義を私は生徒にこう語った。「政治は、〈お任せ民主主義〉〈観客民主主義〉ではいけない。ランチのメニューを選ぶように投票してはならないし、スポーツチームの勝敗結果を眺める感覚で、選挙連報を観てはならないのではないか。私(たち)の願いを届け、私(たち)の「代わりに」政治を託せる人を見極めるのが大切なのだ」と。

#### 「問う」ことは「問われること」

私たちの願い・要求は何か。手紙を書くにあたって、授業の中で、その交流をする。生徒にポストイットを配布し、一つひとつに願いを書いて、それを 黒板に貼りだす。例えば「国の借金を早く返済して ほしい」「武器をなくしてほしい」「政治家のボーナスを削ってほしい」「消費税を上げて(下げて)ほしい」「原発をなくしてほしい」等々、数十の項目が挙がる。

次にそれをグルーピングし、いくつかの政策・争点とする。課題では、(1)共通要求と(2)個別要求(いくつでも可)の2本立てで、手紙(電子メイル)を書くこととした。

返事が来る政党(候補者)もあれば、もちろん返 事がこない場合も多い。これもリアルな政治教育で ある。

相手に「問う」ことは自分が「問われる」ことでもある。改めて、日々の学びが重要になってくることは言うまでもない。そして、学んだこと、獲得した知を生きる力や生き方につなげ、自前の社会づくりにつなげていく――このことがとても大切だ。社会は「ながめる」ものではなく「つくる」ものなのだから。

# 随想

## 連載④ 茨木のり子の詩から広がる学び

#### 黒田 貴子 (中学校講師)

「どこかに美しい村はないか/一日の仕事の終わりには一杯の黒麦酒/鍬を立てかけ 籠を置き/男も女も大きなジョッキをかたむける…」

茨木のり子の詩「六月」に出会ったのは、中学時代の国語の授業でした。お小遣いで購入した『現代詩文庫 茨木のり子詩集』(思潮社)を暗記するほど読み返しました。

「現代史の長女」と称される茨木のり子は、多くの人に愛されています。「私がいちばんきれいだったとき」「自分の感受性ぐらい」「鄙(ひな)ぶりの唄」…。6月の最初の授業では、私の一番好きな詩なのと言って「六月」を紹介します。

#### 「りゅうりぇんれんの物語」を読む

「りゅうりぇんれんの物語」を教材にして授業をおこないます。B4裏表3枚の詩を配ると、こんなに長いの!とたじろぐ子も。それでもこの詩を読み始めると教室は静まりかえり、一斉にプリントを繰る音だけが聞こえる時間が流れます。読み終えると生徒たちは、そっとため息をついて顔を上げます。

これは「劉連仁事件」を綴った長編叙事詩です。 中国の山東省で日本軍に攫われ、北海道の炭鉱で強制労働に従事させられた劉連仁さん。脱走し北海道の山の中で、戦争が終わったことも知らず、冬は雪穴を掘って生き抜いた 14 年の歳月。彼の帰りを待ち続けてくれていた妻との再会。お腹にいた子は14歳に成長していました。

#### 生徒たちが抱くたくさんの問い

「"手あたり次第、ばったでもつかまえるように"とか"彼ラニ愛撫ノ必要ナシ、入浴ノ設備必要ナシ…"など、本当に人間として扱っていなくてひどい。それにしてもりゅうりぇんれんは"子どものものだけはとらなかった"ということや"日本の農民も苦しいのだ"というのが人間らしいと思いました」「劉連仁さんが見つかったとき、彼の身分を明かすため

に協力した日本人が大勢いたことは嬉しかった」「なぜ『華人労務者移入方針』なんてひどい案を出した 商工大臣が、戦後に総理大臣なんかになれるのだろう。こんなことをやった人が総理大臣になったら、 またこういう人たちのことなんかわかってくれない 同じような世の中になってしまうのに」

2時間目。感想をいくつか紹介してから、資料プリントを配ります。劉さんが発見されたときの総理大臣が、東条内閣の商工大臣岸信介だったという事実。岸内閣の官房長官からの手紙を読みます。「拝啓 劉連仁さんは戦時中日本に入国され、明治鉱業会社に入られて以来色々と苦労をされたことと存じます…」

「これじゃあ劉さんが自分から日本に来たみたいだ」「この手紙は丁寧だけど、謝る言葉がどこにもない!」「本当だ!謝っていない!」授業は、戦後補償、戦後責任へとつながって行きます。「劉連仁さんは家族のもとに帰れたけど、帰れなかった人たちもたくさんいるんですよね」生徒たちの問いは深まり、広がっていきます。



当別にある劉連仁生還記念碑 雪穴を表している。 写真提供:山本政俊



# 読者の声

#### ● 授業をしなくても面白い「授業ブックレット」

社会科の教員の方々が、自分たちで会社を作って、納得できる歴史の教科書を作り始められた、ということを聞いたのは数年前でした。「すごい」と、その勇気に尊敬の念を抱きました。その思いから、ミニコミ誌『市民活動のひろば』に楢崎由美さんに原稿を書いていただき、学び舎の教科書のポイントと発行されるご苦労を知りました。そして、思いがけず『授業ブックレット』に出会いました。

『授業ブックレット』は、「授業」のための本、だと思っていました。私は教科書『ともに学ぶ人間の歴史』には関心がありましたが、ブックレットの方は、教員でない私には縁がないと思っていました。

ところが、執筆していただいたご縁で、ブックレットNo.4を手に取ることになり、何気なく、楢崎由美さん執筆による、「走れ、ぞう列車」についての授業例を読み始めて、すっかり引き込まれてしまいました。

まず、私自身が生徒になっておもしろい授業を受けている気分になりました。ぞう列車に関わることについて知らなかったことがいろいろ分かって興味深く感じました。なかでも、戦後4年目の「台東区子供議会」の話。中学1年生が議長・副議長となり、子どもたちが上野動物園に名古屋の動物園から象を借りてくると決議し、夜行列車で名古屋の子供議会に要請に行き、その熱意を大人たちが受け止めて、遠方の子どもたちが本物の象を見られるように動いたという事実です。敗戦後間もない時期、民主主義を実現しようとする人と時代の熱がこの話を通して伝えられているように感じました。実際の授業であれば、今の日本社会に生きる子どもたちはどのように受け止めるでしょうか。

また、子どもたちとのやりとりが生き生きと書かれていたことも、引き込まれた理由だと思います。 「授業例」ということでしたが、実際に楢崎先生がこれまで授業で体験された生徒たちの反応がそこに表現されていたからだと思います。

このブックレットにはあと3つの原稿が掲載されていますが、テーマはいずれも興味深く、このような内容なら続けて読んでみたいと思っています。

(東京都 山家利子)

#### 授業ブックレット No. 9は7月に発売予定です

- ・若杉 温「武州世直し一揆の授業プランを考える 一小松克己「『国病』の根を断ち『万民安穏』を願 う」に学ぶ一」
- ・小林 優香「中学生とともに学んだ3・1運動」
- ・黒田 貴子「第五福竜丸事件から広がる視野」
- ・小川 輝光「コロナ禍で、コロナ後の教科書について考える」

\*ブックレットについては、「学ぶ会」ホームページを ご覧ください。

#### ● 学びの実態に合った指導書

「導入→展開→まとめ」の構成で歴史学の成果から教材へのヒントが多く勉強になります。わたしたちの社会科サークル「ゆいーる」や静岡大学の「地

歴教員養成講座」でも紹介します。

高的い連導とる多うす→れのいすががびの→」う行な導と生態といって対びの→」う行な導と生態といっま開軽授れて→」の合う主で一り→視業るい展の学っの主開を投れて→」の合う



定価/本体 15000円+税 発行 ●学び舎 A4判・272 ページ +CD-ROM

(静岡県 松井秀明)

\*指導書についても、ホームページをご覧ください。



# 学ぶ会からのお知らせ



#### ◆「学ぶ会」会員を広げる活動にお力添えをお願いします

会員のみなさまに会員拡大のお願いメールを広げていただきました。おかげさまで、MLやツイッターなどで拡散され、入会者が増え、会員は5月10日現在620名を超えました。本当にありがとうございます。「真実を伝える教科書をこれからもつくって下さい」「良い内容の教科書を子どもたちに!」「会の発展を祈念いたします」など、添えてくださったメッセージに、社員一同大変励まされています。

#### ◆クラウドファンディングを実施中、ご協力ください

教科書作成のためにはもっと多くの資金が必要です。そこで、5月3日からクラウドファンディング「A-port」で、「子どもたちに民主主義のバトンをつなぎたい『自分の心で感じる 自分の頭で考える』学び舎歴史教科書にご支援を!」というプロジェクトを始めました。8月30日まで、目標は1000万円(まずは500万円)です。お知り合いや周りの方に広めてください。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

#### ◆「学ぶ会」HPのアクセス数が5千回を超えました

学ぶ会ホームページをリニューアル公開して以来、毎日100人以上のアクセスがあり、合せて5000回を超え、グーグルやヤフー等で検索するとTOPページに表示されるようになりました。

### ◆学ぶ会全体会は9月20日(月・祝)にオンラインで行います

活動報告、今期総括と来期方針、市民の学習会報告、講演は大日方純夫さん(コアアドバイザー)の「コロナ禍のなかで『自由民権』を考える」を予定しています。同封のチラシをご覧ください。

#### ◆「学ぶ会」の会期は、8月1日~翌年7月31日です

今回の封筒の宛名の下に会員番号・コースを載せました。なお、郵便 振替で年会費をお支払いいただく**A2コースの会員**の方には、次の<u>会報</u> 第5号(9月1日発行予定)に振替用紙を同封しますので、それで手続 きをしてくださるようお願いします。

### ◆菅間正道『向かい風が吹いても』(子どもの未来社) 好評発売中

この会報に「子ども・若者を主権者/市民に育てよう―『知憲』『学憲』 のススメ」を連載している菅間さんの著書です。







一般社団法人事務所住所メールアドレスホームページ編集・発行タイトルDesign

子どもと学ぶ歴史教科書の会(略称「学ぶ会」) 〒 190-0022 東京都立川市錦町 3 - 1 - 3 - 6 0 5 manabukai@mbf.nifty.com http://www.manabisha.com 一般社団法人「学ぶ会」会報『つどいの樹』編集委員会 株式会社久保田デザイン工房

